

ジェンダー平等 推進部門便り

2025年7月31日発行

神戸大学インクルーシブキャンパス&ヘルスケアセンタージェンダー平等推進部門 〒657-8501 神戸市灘区六甲台町1-1 Tel:078-803-5471/5017

令和6年度女性リーダー育成事業について

文部科学省・科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（女性リーダー育成型）」の本学採択事業「ADRES サイクルによる輝く女性リーダー活躍促進プログラム」（令和6年10月採択）では、女性研究者の登用、育成、定着とそれらを支える意識改革として、令和6年度に以下の取組を実施しましたのでご報告いたします。

実施体制：令和6年11月に事業全体の意思決定と進捗管理を行う「女性リーダー育成会議」、各種支援プログラムを実施する「女性リーダー育成推進室」を設置しました。ジェンダー平等推進部門は同室の円滑な業務遂行を支援します。

登用：承継内女性教授・准教授昇任支援制度によって准教授8名が教授に昇任し、助教・講師7名が准教授に昇任しました。また、女性管理職ポジティブアクションによって女性教員4名を評議員に登用しました。

育成：女性研究者の採用支援として「女性教員増加人数に対するインセンティブ経費の配分」を実施し、11部局15名に対して経費を配分しました。若手教員を雇用した学域を支援する「女性教員インスパイア制度」では、2部局2名に対して人件費を支援しました。また、女性研究者の研究力向上を支援する制度として「女性研究者 研究成果公表支援」を実施し、延べ29名を支援しました。「国際共同研究PI養成」では3名に対して海外渡航費などの研究費を支援しました。

定着：育児や介護等による研究中断から復帰する研究者に研究費を支援する「リスタートアップ支援」では3名を支援し、「学外保育サービス利用補助支援」では3名を支援しました。その他の各種ワークライフバランス支援も実施しました。

意識改革：大学間の情報共有を担う「全国ダイバーシティネットワーク」では、近畿ブロックの幹事校を担当しました。企業との連携を図る「神戸大学ダイバーシティ共創ネットワーク」では、参加企業7社とそれぞれ面談を実施するとともに顔合わせの遠隔会議を実施しました。さらにロールモデル交流会（自然科学系編）を実施しました。

令和7年度も同様の取組を実施しています。引き続き本事業に対するご支援、ご協力をお願い申し上げます。

就任のご挨拶



特命助教
尾曲 美香
Mika Omagari

令和7年4月より女性リーダー育成推進室に就任いたしました尾曲美香です。これまで、家庭における性別役割分業や育児期の夫婦の家事分担に関する研究に取り組んでまいりました。また、研究活動に加え、男女共同参画や女性支援の現場にも関心をもち、大学の男女共同参画室、自治体の男女共同参画センター、NPOでの実務も経験しました。

このたび、神戸大学で働く機会をいただき、とても嬉しく、また身の引き締まる思いであります。大学での勤務経験は久しぶりで緊張もありますが、室長の奥村弘理事、副室長の野田和恵先生、コーディネーターの田中丸治哉先生をはじめ、多くの方々に支えていただきながら、気持ちを新たに日々の業務に取り組んでいます。

今後は、これまでの学びや経験を活かし、女性リーダー育成推進室が「女性研究者支援やジェンダーに関することなら、まずはここに相談してみよう」と思っただけのような、身近で開かれた場になるよう努めてまいります。気軽にお声がけいただけましたら幸いです。どうぞよろしくお願いいたします。

神戸大学ユネスコチェア研究プログラムの一環として、年に1回「国際共同研究セミナー」が開催されます。今回は、担当校の国立高雄科技大学（台湾）で「ユネスコチェアセミナー 2025 ―ジェンダー、災害、ウェルビーイング―」が5月27日～28日に対面で開催されました。

シンポジウムでは「海にひらめきを受けた女性のレジリエンス」というテーマについて3つの基調講演が行われました。神戸大学ユネスコチェアホルダーのアレキサンダー・ロニーからは「私たちの命である海～危険な世界で海を守る女性たち」という題の講演でした。ほかに、実践者による被災した漁村の復興についての講演と、行政官による船舶で働く女性についての講演があり、様々な視点から考えることができました。

研究セミナーでは、各連携校から「ジェンダー、ウェルビーイングと災害」についての研究報告がありました。神戸大学からは、国際協力研究科の大学院生がフィリピンで起こった台風と阪神大震災についての報告をオンラインで行い、参加者は30年前の阪神大震災と近年各地で起こっている災害とのつながりについて理解を深めることができました。

2日目は、災害被災地の観察にリナリという地域に行きました。モラコット台風（2009年）が3日間で台湾の1年分の雨をもたらし、先住民が多く暮らしていた山間部に洪水や山崩れ等の大きな被害となりました。私たちはまず、博物館でその被害についての展示を見ました。丸ごと泥の中に消えてしまった町の画像や、復興の取り組み、それについての住民の意見などの内容によって被害の規模を実感できました。その後、被災者の再定住のために建てられた村を尋ねました。農地を失った住民は現在、観光に力を入れており、先住民のリーダーから生活や文化、復興、ジェンダーについて多くの話を伺いました。復興が成功するためには文化や生活様式を考慮する重要性を再確認できました。詳しくはホームページをご参照ください。 https://www.office.kobe-u.ac.jp/opge-kyodo-sankaku/project/unesco/seminar_list/2025/1116_2025_jp.html



研究セミナーで報告するマレーシアのタン先生



高雄科技博物館の前に並ぶ参加者



桜井愛子教授（国際協力研究科）と先住民のリーダー

UNESCO Chair

神戸大学ユネスコチェア

「ジェンダー、脆弱性、ウェルビーイングを中心に据えた減災対策」

2025年度 教育プログラム オンライン国際会議の参加者募集

神戸大学ユネスコチェア「ジェンダー、脆弱性、ウェルビーイングを中心に据えた減災対策」教育プログラムのオンライン国際会議（12月6日～7日）に参加してみませんか。10月早々に参加者募集を開始します。

今年のテーマは「一緒に減災に取り組もう～安全・安心を私たちから発信しよう」です。神戸大学ユネスコチェアの連携大学（タイ、インドネシア、マレーシア、台湾）の学生と一緒にディスカッションやプレゼンテーションづくりを通じて、災害とジェンダーについて学ぶだけでなく、豊かな国際交流も体験できます。

全学の学部生、大学院生が参加できるプログラムです。チャレンジしたい学生がいたら、ぜひすすめていただきたいです。詳しくはGEMs及びホームページをご参照ください。 https://www.office.kobe-u.ac.jp/opge-kyodo-sankaku/project/unesco/news/2025/post_1_2025.html

参加大学・Participating Universities
高雄科技大学（台湾）、ボジマゴ大学（インドネシア）、トロンクアポドゥールラマン大学（マレーシア）、メーファルアン大学（タイ）、シファタミールエマラト大学（UAE）、神戸大学（日本）

日時・Dates
2025年12月6日（土）～7日（日）10:30-16:30
* 事前学習 神戸大学の輪郭の集約のため、約60分待ち合わせ（3日程度）
* 本会議 参加校に出席（2025年12月～2026年2月に開催、平日午前90分）

応募前記・人数 Registration period
10月6日（月）～10月31日（日）（10人程度）

応募資格・Eligibility
* 神戸大学の学生、院生！興味ややる気あり！英語でがんばってみたい！

詳細および応募方法・Information * 応募URLは2025年7月15日公開予定
・ICM センターウェブサイト 国際共同研究委員会、ユネスコチェア（募集情報）
<https://www.office.kobe-u.ac.jp/opge-kyodo-sankaku/project/unesco/index.html>
・GEMs（オンライン ユネスコチェア 教育プログラム）をご確認ください。

令和6年度 国際共同研究者養成プログラム 研究報告

令和6年度の国際共同研究者養成プログラムの支援を受け、台湾国立陽明交通大の増原宏教授と「レーザートラッピングを用いた液滴状タンパク質濃縮体の形成と制御方法の開拓」を実施しました。近年、細胞内のタンパク質や核酸が液滴のような集合体を形成し生理機能に関わることが判明しましたが、人為的な形成方法は確立していません。そこで本研究では、レーザートラッピング（レーザー光の照射により発生する力を利用した粒子操作）を用いた液滴形成に取り組みました。これまでタンパク質では、サイズが小さすぎるために適用は困難とされてきましたが、新規なトラッピング現象を数多く明らかにしてきた増原教授と共同で挑戦できることになりました。

本研究は令和4年末より開始し、令和6年度も継続して増原研究室に赴きレーザー実験を実施しました。増原教授の支援に加え、柚佳祐博士（開始当時は茶谷研究室の博士後期課程学生、令和6年度より陽明交通大博士後研究員として増原研究室に在籍し、理学研究科研究員を兼務）と大学院生に装置セッティングや測定で手厚くサポートしていただきながら実験を進めました。現在まで、神経変性疾患に関わる α シヌクレインについて、液滴の形成と成長、さらに後に液滴が固体化し、アミロイド線維が生成するという病変を観察することができ、学会および論文（Yuzu et al., PNAS, 2024, 121, e2402162121）で発表を行いました。ほかにも、院生向けセミナーでの研究紹介や増原研の研究プロジェクトへの参画など貴重な交流の機会をいただきました。本成果を端緒に、将来的には細胞内での液滴コントロールの実現を目指したいと考えています。

令和6年度 国際共同研究 PI 養成プログラム 研究報告

令和6年度 国際共同研究 PI 養成プログラムに採択していただき、2025年3月13～23日に共同研究先であるアメリカ合衆国ネブラスカ大学リンカーン校を訪問した。私の研究は、身体の栄養などの状態が味の嗜好に与える影響を明らかにすることを目的としており、神戸大学で実施した動物実験から得たサンプルを用いて現地で腸内細菌叢の解析を行った。

訪問先の Department of Food Science and Technology は、食品機能性に関する網羅的な研究体制と充実した設備を有しており、特にヒト消化管および腸内細菌叢の in vitro モデル、さらに糖類・脂質・アミノ酸などの代謝物を網羅的に解析する技術は、今後の研究展開に非常に有用であった。私は農学部に所属し、「農」を軸とした学内連携に携わってきたが、訪問先のように「食品」を共通の軸とした異分野連携のあり方は新鮮で、大いに刺激を受けた。Dr. Auchtung の研究グループの協力により、得られたデータの統計解析を進め、微生物叢の構成変化と宿主の栄養状態との関連について活発な議論を重ねることができた。腸内細菌叢は、動物のさまざまな生理状態に深く関与していることが近年注目されており、私のこれまでの研究では、甘味感受性の変化に腸内細菌叢が関与する可能性を示している。これは、将来的に代謝性疾患への非薬理的介入としての応用が期待される成果である。今後は、マウスとヒト両方のデータをもとに、腸内環境と味覚嗜好の分子機構の解明をめざし、継続的な国際連携研究を展開していきたい。

理学研究科 教授 茶谷 絵理

■ 支援期間

2024/6/6 ~ 2025/3/31

■ 共同研究者所属機関

台湾国立陽明交通大学

National Yang Ming Chiao Tung University, Taiwan



共同研究先である増原研究室がある田家炳（ティンカービン）光電中心

農学研究科 助教 藍原 祥子

■ 支援期間

2024/12/13 ~ 2025/3/31

■ 共同研究者所属機関

ネブラスカ大学リンカーン校

University of Nebraska-Lincoln



訪問先の Food Innovation Center。Food Science and Technology のラボだけでなく、企業のラボ、共同研究で使える加工室などが入っている。

「大学における『Inclusive文化』形成～ジェンダー意識の把握と改革の実現」の最終報告書ができました

科研費プロジェクト「大学における『Inclusive文化』形成～ジェンダー意識の把握と改革の実現」(2022年度 挑戦的研究(萌芽) 22K18555、研究代表者 アレキサンダー ロニー)では多くの先生方にご協力いただき、誠にありがとうございました。この度、研究報告書ができましたことをご報告します。

本研究は、挑戦型研究(萌芽)として、神戸大学の教員を対象にWEB調査及びワークショップを行い、ジェンダー意識や神戸大学におけるジェンダー平等に関する考え方を把握したうえで、よりインクルーシブなキャンパスを構築していくことを目的に掲げました。まず、教員を対象にWEB調査を実施しました(回答率26.2%)。次に調査回答者の中からの希望者を対象にワークショップを開催し、調査の結果や神戸大学におけるジェンダー平等について意見交換を行いました。

この研究では決定的な結果が得られなかったものの、調査による意識の把握とワークショップを通じての意見交換やコミュニケーションは、大学におけるジェンダー不平等の可視化に役立つことが明らかになりました。一方、ジェンダーを考える機会を増やすことや、この研究を通して可視化した問題への解決などが課題として残っています。詳しい内容については、報告書をご覧ください。<https://www.office.kobe-u.ac.jp/opge-kyodo-sankaku/data/data/images/kaken2025.pdf>

ジェンダー平等推進部門内に情報コーナーをオープンしました

ジェンダー平等推進部門(六甲台第2キャンパス・眺望館2F)に、多様な性やジェンダーに関する書籍を読んだり、DVDを視聴できる情報コーナー(以下写真)をオープンしました。貸出も行っています。神戸大学構成員であればどなたでもご利用いただけます。



利用案内

■ 開室時間

平日 10:00 - 16:00

※ 開室日・時間は変更になる場合があります

■ 貸出: 5冊・点

■ 貸出期間: 2週間

＝ お・知・ら・せ ＝

多様な性・ジェンダーに関する相談窓口のご案内

ジェンダー平等推進部門では、神戸大学構成員の皆様の多様な性・ジェンダーに関する相談に対応しています。プライバシーは厳守しますので、気になること、悩み、質問などありましたら、お気軽にご相談ください。ご相談は、こちらのQRコードから。

多様な性・
ジェンダー
に関する
相談窓口



多様な性・ジェンダーに関する研修動画のご案内

神戸大学 ICHC センター 多様な性・ジェンダーに関する構成員向け研修作業部会が、「多様な性、ジェンダーに関する研修 知識と理解編～多様な構成員が活躍できる環境づくりをめざして～」を制作いたしました。

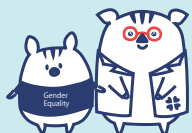
多様な性・
ジェンダー
に関する
研修動画



ダイバーシティ教育プログラム動画のご案内

ジェンダー平等推進部門では、男女共同参画の推進に向けて教育プログラム(eラーニング)を作成しました。学内限定で公開しています。ぜひご活用ください。

ダイバー
シティ教育
プログラム
動画



ジェンダー平等推進部門にご意見・ご要望がありましたら、ホームページのお問い合わせからご意見箱を使ってお送りください。みなさまからのご意見・ご要望お待ちしております。

■ジェンダー平等推進部門HP <http://www.office.kobe-u.ac.jp/opge-kyodo-sankaku/>